Osaka University Knowledge Archive

Title	血清アルブミンと高感度C反応性タンパク質は中年日本人において慢性腎臓病の独立した危険因子である : CIRCS Study
Author(s)	久保, 佐智美
Citation	大阪大学, 2016, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/55782
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

論　文　内　容　の　要　旨
Synopsis of Thesis

氏　名 Name	久保　佐智美
論文題名 Title	Serum albumin and high-sensitivity C-reactive protein are independent risk factors of chronic kidney disease in middle-aged Japanese individuals: the Circulatory Risk in Communities Study （血清アルブミンと高感度C反応性タンパク質は中年日本人において慢性腎臓病の独立した危険因子である：CIRCS Study）

論文内容の要旨

【目的(Purpose)】

近年、日本における老年人口は年々増加し続けており、慢性透析患者数も増加している。そのため、末期腎不全の主な危険因子である慢性腎臓病（CKD）の早期発見・早期治療のために、新しい危険因子を明らかにし、より早期からの保健医療介入を行うことが重要であると考えられる。

今回我々は、血清アルブミンと高感度C反応性タンパク質（hs-CRP）が、CKD発症の独立した危険因子であると仮定し、腎機能低下を伴わない地域住民を対象として、血清アルブミン値およびhs-CRPとCKD発症との関連についてコホート研究により検討した。

【方法(Methods)】

対象者は、ベースライン時（2002-2003年度）に腎・肝疾患の既往がなく、糸球体濾過量（eGFR）が60 mL/分/1.73m^{2}以上であった40-69歳の地域住民(秋田、大阪)2535人(男性821人,女性1714人)で、その後のCKD発症を2013年度までの健診結果を用いて追跡した。CKD発症はeGFR低値(60mL/分/1.73 m^{2}未満)と定義し、ベースライン時の血清アルブミン値、hs-CRP値とその後のCKD発症との関連を分析した。その際、Cox比例ハザードモデルを用いて、男女別に、ベースライン時の年齢、地域、eGFR値、収縮期血圧値、降圧薬服用の有無、糖尿病の有無、総コレステロール値、脂質異常治療薬服用の有無、喫煙習慣、hs-CRP値または血清アルブミン値を調整したハザード比(HR)を算出した。

【結果(Results)】

追跡期間中央値は男女計9.0年、追跡人年は19413人年で、追跡期間中の新たなCKD発症者は367人(男性123名、女性244名)であった。ベースライン時の血清アルブミン値を4分位に分け、第1四分位を基準としてCKD発症の多変量調整HR（95%信頼区間）を算出した結果、男性では第4四分位で0.69(0.40-1.17)、女性では0.42(0.28- 0.64)であった。Hs-CRP値について同様に算出した結果では、男性の第4四分位で0.95(0.54-1.67)、女性では1.85(1.25-2.75)であった。さらに女性において血清アルブミン値とhs-CRP値をそれぞれ低値群、高値群に分類して組み合わせてHRを検討したところ、低hs-CRP群では血清アルブミン値とCKD発症との関連が、血清アルブミン高値群では、hs-CRP値とCKD発症との関連が認められた。

【総括(Conclusion)】

腎・肝疾患の既往のない一般住民の女性において、血清アルブミン高値とhs-CRP低値は、CKD発症リスクの抑制因子である可能性が示された。

[Format-H07]

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）　久保佐智美

		（職）	氏　名
論文審査担当者	主　査	大阪大学教授	磯　博康
	副　査	大阪大学教授	福地 剛
	副　査	大阪大学教授	下村 伊一郎

論文審査の結果の要旨

近年、日本における老年人口は年々増加し続けており、慢性透析患者数も増加している。そのため、末期腎不全の前病態である慢性腎臓病（CKD）の早期発見・早期治療のために、従来報告されている心血管疾患の危険因子以外の予測マーカーを明らかにし、より早期からの保健医療介入を行うことが重要である。

そこで、研究開始時に腎・肝疾患の既往がなく、糸球体濾過量（eGFR）が60 mL/分/1.73m^{2}以上であった40-69歳の地域住民2535人(男性821人,女性1714人)を対象として、その後11年間、CKD発症の有無を追跡し、血清アルブミン値、hs-CRP値とCKD発症との関連を分析した。その結果、女性において、血清アルブミン高値とhs-CRP低値が、CKD発症のリスクを低下させる可能性が示された。本研究は、炎症マーカーとCKD発症との関連を明らかにした、日本人を対象とした初めてのコホート研究である。

以上により、本論文は学位に値するものと認める。